ハンズフリー通話装置

EC-12

取扱説明書

このたびは、ハンズフリー通話装置EC-12をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、お客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

- 本商品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。本商品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。
- 本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
  This telephone system is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、会議などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本商品を設置するための配線工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。
- 本商品を分解したり改造したりすることは、絶対に行わないでください。
- 本商品は、お買い求めのときには国内の相手の方と通信することを前提とした設定になっています。海外との通信を主に行われる方は、重要な通信を行う前に相手の方と正常に通信できるか確認してください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。

⚠警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

- 異常音などがしたり、ケースや電源アダプタなどが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所に点検をご依頼ください。

- 万一、内部に水などが入った場合は、本商品の電源を切り、電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

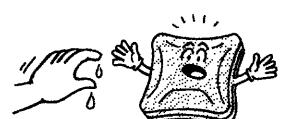
- 本商品のマイクやスピーカの穴などから内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

- 本商品を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となることがあります。内部の点検、調整、清掃、修理は当社のサービス取扱所にご依頼ください。

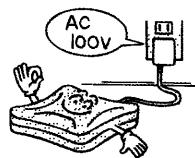
- 万一、本商品を落としたり、破損した場合、電源アダプタをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

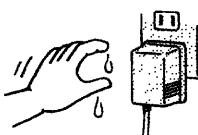
- 本商品のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

- ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

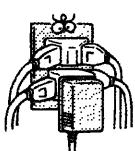
- 本商品をぬれた手でさわったり、水をかけないようにご注意ください。火災・感電の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

⚠警告

●AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源アダプタは、必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・故障の原因となることがあります。

●ぬれた手で電源アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源アダプタコードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。また、重い物を乗せたり、加熱したりすると電源アダプタコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源アダプタコードが傷んだら、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●電源アダプタコードが傷んだ（芯線の露出、断線など）状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタを抜いて、当社のサービス取扱所に修理を依頼してください。

●テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源アダプタは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また、半年から1年に1回は、電源アダプタをコンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

お使いになる前に（設置環境）

⚠注意

●直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのために著しく温度が上昇するところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

⚠注意

●調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。また、本商品の上に重いものを乗せないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

●本商品の底面にはゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面がまれに変色するおそれがあります。

お使いのとき

⚠注意

●電源アダプタをコンセントから抜くときは、必ず電源アダプタを持って抜いてください。電源アダプタコードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●近くに雷が発生したときは、電源アダプタをコンセントから抜いてご使用を控えてください。落雷によって、火災・感電の原因となることがあります。

●本商品や電源アダプタコードを熱器具に近づけないでください。本商品や電源アダプタコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

●長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。

●お手入れの際は安全のため電源アダプタをコンセントから抜いて行ってください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

取り扱いについて

●ぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本商品の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

●落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

●接続する相手によっては完全にエコーを押さえることができないことがあります。できるかぎり同じ装置を接続してご使用ください。

●本商品から50 cm程度離れてお使いください。近すぎたり、離れすぎたりしてご使用になりますと、こちらの音声が相手へ適切な音量で伝わりません。

●磁気を利用したカード（テレホンカード、定期券等）や磁気の影響を受けるものを、本商品に近づけないでください。

- スピーカからの磁気により、カード等が使用できなくなるおそれがあります。

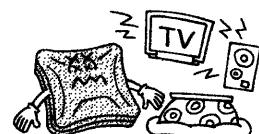
置き場所について

 お願い

●故障の原因となりますので、次のような場所への設置は避けてください。

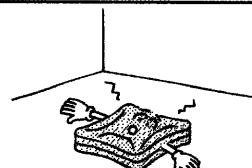
- 製氷倉庫など特に温度が下がる場所。
- 塵・ほこり・鉄粉・有毒ガスなどが発生する場所。
- 湿気の多い場所や水、油、薬品などがかかるおそれのある場所。

●電気製品・AV・OA機器など磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
また、本商品の近くで携帯電話、無線機などを使用しないでください。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通話ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音が大きいときは、本商品の設置場所を移動してみてください。

●テレビ・パソコンのディスプレイより、50 cm以上離してご使用ください。

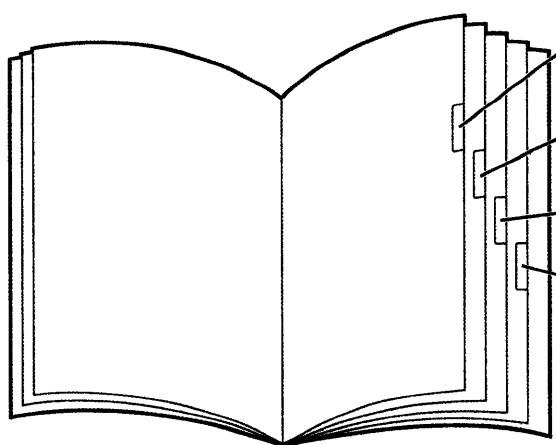
- スピーカからの磁気により、テレビ・ディスプレイに色むらが生じたり画面が乱れることがあります。

●硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本商品の寿命が短くなることがあります。

●反響や残響の多い場所など、ご使用になる部屋によってはエコーやハウリングが消しきれないことがあります。

●壁から離して（1 m以上）設置してください。
壁に近づけて設置しますとハウリングやエコーの原因になることがあります。

●著しい騒音のある場所に置かないでください。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成

1 お使いになる前に
お使いになる前に知っておいていただきたいことをまとめています。

2 接続する
電話回線との接続方法やPhoenixシリーズ、PICSEND-RⅡ、スキュワトークシリーズとの接続方法などについて説明しています。

3 EC-12を使う
EC-12のご使用方法について説明しています。

4 ご参考に
故障かな？と思ったときの確認方法などを説明しています。

操作説明のページの構成

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

ワンポイント／お願い／お知らせ

〈ワンポイント〉
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明を示します。

〈お知らせ〉
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

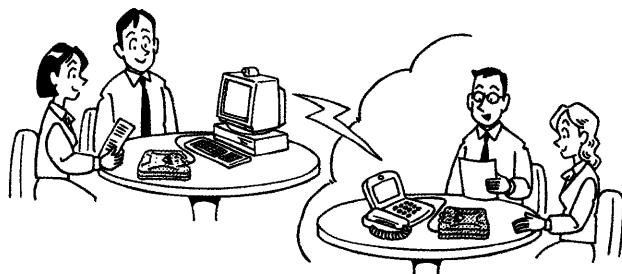
〈お願い〉
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示します。

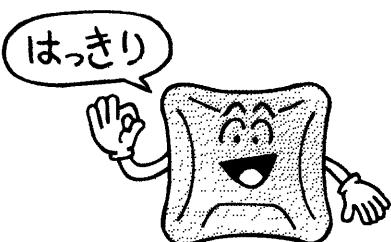
操作手順説明
順番に操作を説明します。

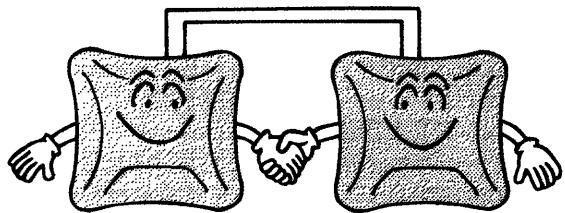
目 次

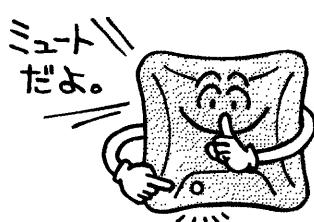
特　長

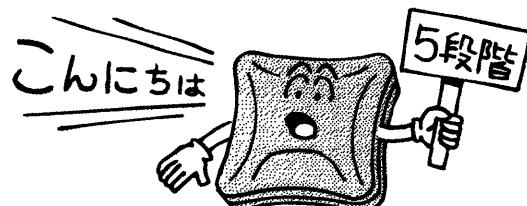
離れた場所とのハンズフリー通話を実現

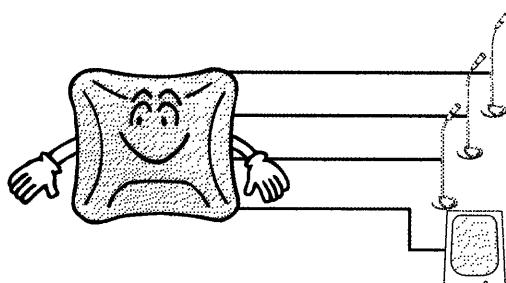
アナログ回線または音声入出力端子を持つ電話機など（Phoenixシリーズ、PICSENDシリーズ、スキュワトークシリーズなど）と接続して、本体内蔵のスピーカとマイクにより、離れた場所と受話器を使わずに通話（ハンズフリー通話）ができます。

明瞭、高品質な通話を可能にするエコーキャンセラ機能

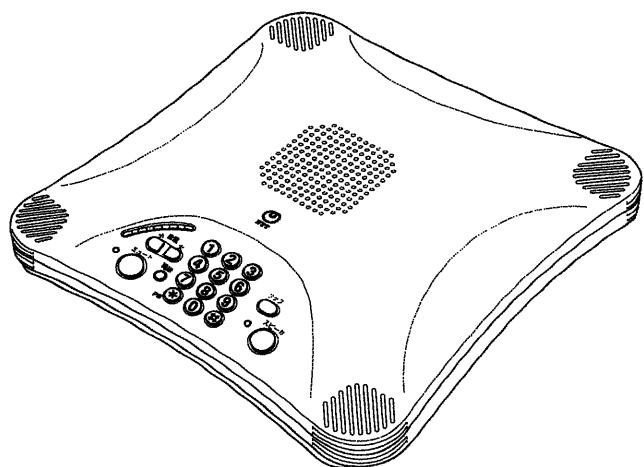
当社独自のエコーキャンセラ機能によって、ハウリングやエコーを抑えた自然な通話ができます。

EC-12の増設も可能

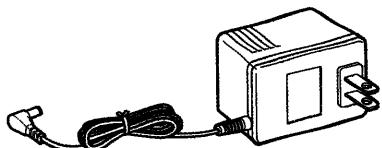
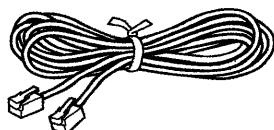
音声入出力端子を使用してEC-12を1台増設することができます。

ミュート（送話切）することが可能

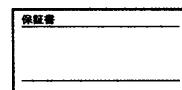
こちらの音声を相手に伝えたくないときは、ミュート（送話切）して、相手からの音声のみを聞くことができます。（☛P29）

スピーカ音量、着信音を簡単調節

スピーカからの音量は音量ボタンを押すだけで調節でき、ランプで5段階に表示されます。（☛P29）
また、着信音は「入」「切」、着信音量は「大」「小」に切り替えることができます。（☛P14）

外部スピーカや外部マイクの増設も可能

外部スピーカを1個、外部マイクを最大3個まで増設することができます。（☛P25）

セットを確認してください

■本体

ハンズフリー通話装置　EC-12（1台）

■付属品

電源アダプタ（1個）

電話機コード（1本）

取扱説明書（1部）

保証書（1枚）

●セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁があった場合などは、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

各部の名前

【上面図】

マイク
こちらの音声を相手に送ります。
スピーカ音量表示ランプ
音量設定位置をランプで表示します。(☛P29)
・電源を入れたときは3個のランプが点灯します。
・音量を大きくする操作により最大5個
音量を小さくする操作により最小1個
のランプが点灯します。
スピーカ
相手の音声を出力します。
ダイヤルボタン
電話をかけるときに使います。(☛P26)
フックボタン
電話をかけたときの再発信、キャッチホンなどを利用するときに使います。(☛P30)
マイク
マイク
スピーカボタン
電話をかけるときや、通話を終わるときに使います。(☛P26、28)
ミュート表示ランプ
ミュート（送話切り）の状態をランプで表示します。(☛P29)
・ミュート中‥‥赤のランプが点滅します。
状態表示ランプ
通話状態をランプで表示します。(☛P26、28)
・発信時と通話中‥‥緑のランプが点灯します。
・着信時‥‥赤のランプが点滅します。
ミュートボタン
送話を切ります。(☛P29)
音量ボタン
スピーカの音量を調節するときに使います。(☛P29)
・「大」を押すと音量が大きくなります。
・「小」を押すと音量が小さくなります。
シャープボタン
通常のダイヤル発信以外のサービスを利用するときなどに使います。
再送ボタン
再ダイヤルするときに使います。(☛P27)
* スター(PB)ボタン
ダイヤル回線を使用している場合、プッシュ信号を送るときなどに使います。(☛P30)

【背面図】

電話機コード差込口
電話回線を接続するときに、電話機コードを差し込みます。(☛P17)

音声入出力端子
増設時にEC-12と接続します。また、音声入出力端子を持つ電話機などを接続します。

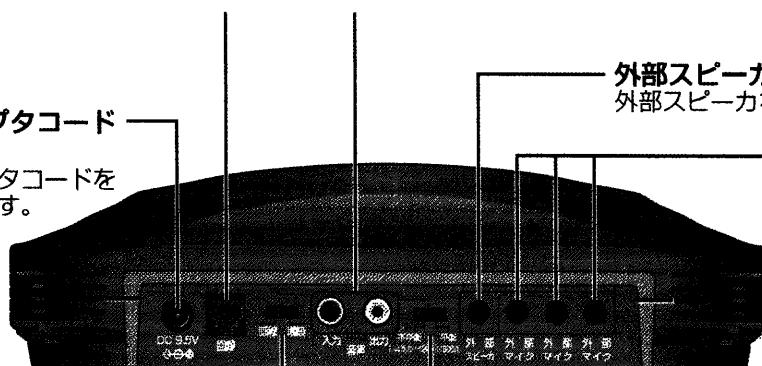
外部スピーカ端子
外部スピーカを接続します。

電源アダプタコード差込口
電源アダプタコードを差し込みます。

外部マイク端子
外部マイクを接続します。

平衡／不平衡スイッチ
音声入出力端子のインタフェースを切り替えます。

＜設定内容＞

不平衡側 不平衡　平衡	・EC-12を増設するとき ・Phoenixシリーズ、PICSENDシリーズと接続するとき
平衡側 不平衡　平衡	スキュワトークシリーズと接続するとき

回線／増設切替スイッチ
EC-12のNCU（ネットワーク制御装置）機能を使うときと、外部のNCU機能を使うときとを切り替えます。

＜設定内容＞

回線側 回線　増設	EC-12のNCU機能を使うとき
増設側 回線　増設	外部のNCU機能を使うとき（EC-12を増設される側として使うとき、音声入出力端子を持つ電話機などに接続するとき）

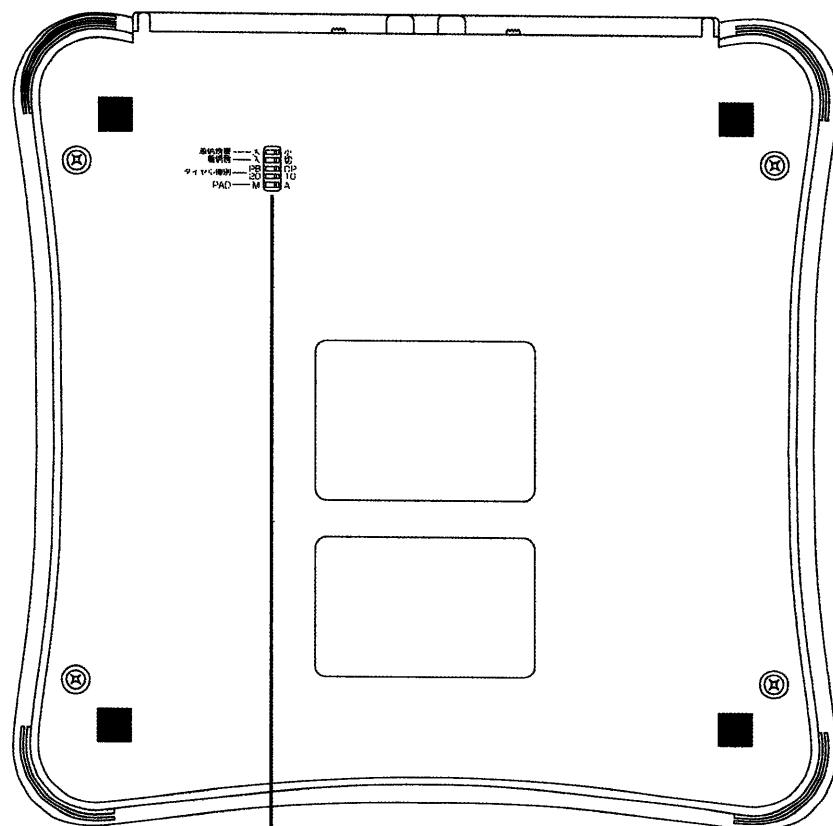
ワンポイント

●**平衡／不平衡スイッチの設定が間違っていると**
相手の音声が小さくなったり、聞こえなくなったりすることがあります。

STOP お願い

●回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。

各部の名前

【底面図】

ディップスイッチ
着信音、ダイヤル種別などを切り替えます。(☛P17)

<設定内容>

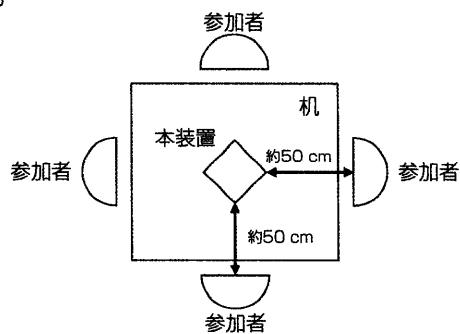
着信音量		「大」「小」に切り替えます	大：着信音量大 小：着信音量小
着信音		「入」「切」を切り替えます	入：着信音を鳴らす 切：着信音を鳴らさない
ダイヤル種別	DP／PB切替	回線の種類により、DP／PBを切り替えます	DP：DP回線 PB：PB回線
	10／20切替	DPに設定したとき、ダイヤル速度10／20ppsを切り替えます (PBに設定したときは、10／20切替は無効となります)	10：10pps 20：20pps
PAD（パッド切替）		PBXなどの端末として使うときに切り替えます	A ：通常 M：PBXなどの端末として使うとき

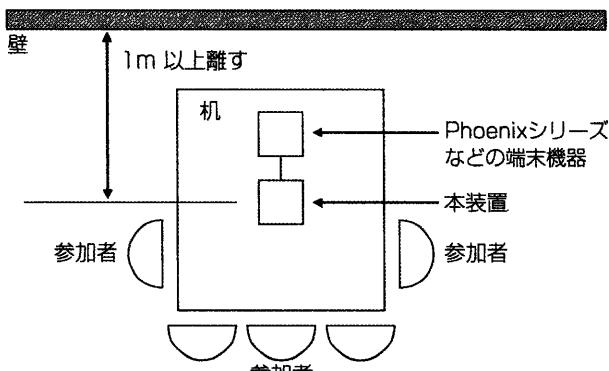
設置環境について

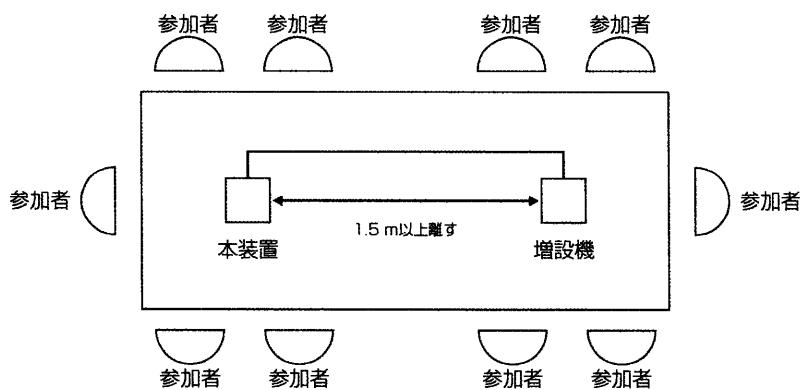
本装置を設置するときは、場所が適当かどうか確認してから行ってください。**（☛P3、4、5、7）**

■本装置を1台設置するとき（一般的な設置環境）

●円卓形式の場合

基本的に、本装置（EC-12）は会議参加者の中央に置きます。
本装置と会議参加者との距離は約50 cmが最適です。

●対面形式の場合

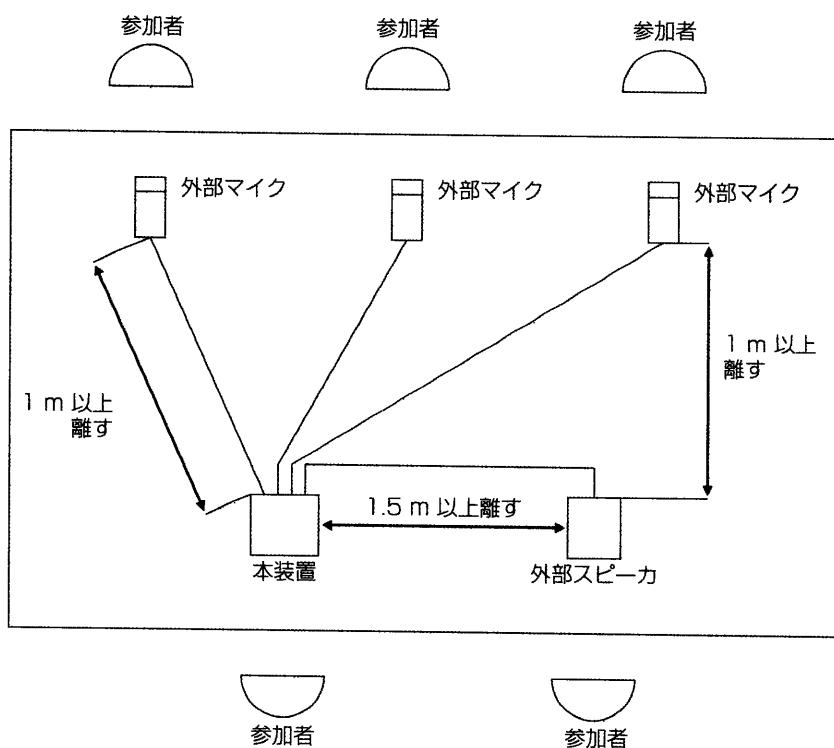
Phoenixシリーズ、PICSENDシリーズなどのTV電話・TV会議端末と接続してご使用になるときは、映像を見るため、円卓形式ではなく、対面形式をとる場合が多くなります。対面形式の場合は、本装置と壁との距離は1 m以上離して、接近しすぎないように注意してください。

■本装置にEC-12を増設するとき

本装置と増設機（EC-12）との距離は、1.5 m以上離してください。ハウリング防止のため、近づけすぎないように設置し、また、装置の角にあるマイクとマイクを向かい合わせないよう平行に置いてください。
その他の設置条件は、「本装置を1台設置するとき」と同じです。

STOP お願い

- ●マイクは正面からお使いください。
- ●マイク、スピーカはふさがないでください。
- ●Phoenixシリーズ、PICSENDシリーズ、スキュワトークシリーズなどの音声入出力端子を持つ機器と本装置を並べて設置するときは、接近しすぎないようにしてください。性能が低下するおそれがあります。
- ●本装置のそばに物を置かないでください。
- ●反響や残響の多い場所などご使用になる部屋によっては、エコーやハウリングが消しきれないことがあります。

設置環境について

■本装置に外部スピーカや外部マイクを増設するとき

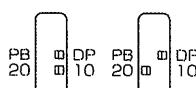
本装置と外部スピーカとの距離は、1.5 m以上離してください。また本装置と外部マイクの距離は1 m以上離してください。さらに外部スピーカと外部マイクとの距離は1 m以上離してください。ハウリング防止のため、近づけないように設置し、また、外部マイクは本装置や外部スピーカと向かい合わせないよう逆向きに置いてください。その他の設置条件は、「本装置を1台設置するとき」と同じです。

お願い

- 外部マイクは正面からお使いください。
- 外部マイク、外部スピーカはふさがないでください。
- 外部マイク、外部スピーカのそばに物を置かないでください。
- 外部スピーカの音量を上げすぎると、エコーやハウリングが発生することがあります。
- 外部マイクと会議参加者の距離は、50 cmから1 m程度が目安です。
  外部マイクと会議参加者の距離が近すぎると、通話相手側の受話音がひずんだり、本装置（EC-12）の性能が低下するおそれがあります。この場合は、外部マイクと会議参加者の距離を離してください。

電話回線と接続するには

① 電源がOFF（電源アダプタを抜いた状態）であることを確認してください。

② 電話回線の種別をディップスイッチ（底面）で設定します。

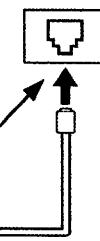
ダイヤル回線のとき

（10 pps）（20 pps）

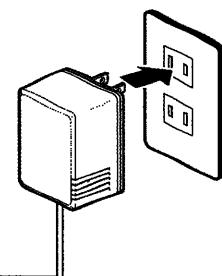
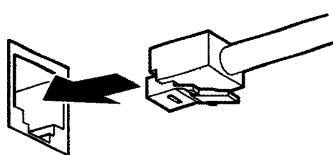
プッシュ回線のとき

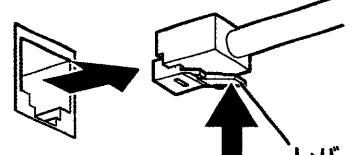
（「PB」に設定したときは10／20切替スイッチは無効となるので、どちらに設定されていてもかまいません。）

③ 回線／増設切替スイッチを「回線」側にします。

④ 電話機コードを電話機コード差込口に差し込みます。

⑤ 電話機コードを電話機用ローゼット（モジュラジャック式）につなぎます。

⑥ 電源アダプタのプラグを電源アダプタコード差込口に差し込みます。

⑦ 電源アダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。

●電話機コードを差し込むとき

カチッと音がするまで差し込んでください。

●電話機コードを引き抜くとき

レバーを押さえながら引き抜いてください。

STOP お願い

●本装置と、他の電話機などをブランチ接続する場合は、同時に使用しないでください。性能が低下することがあります。

●回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。

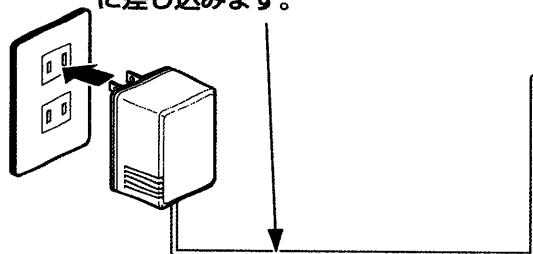
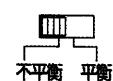
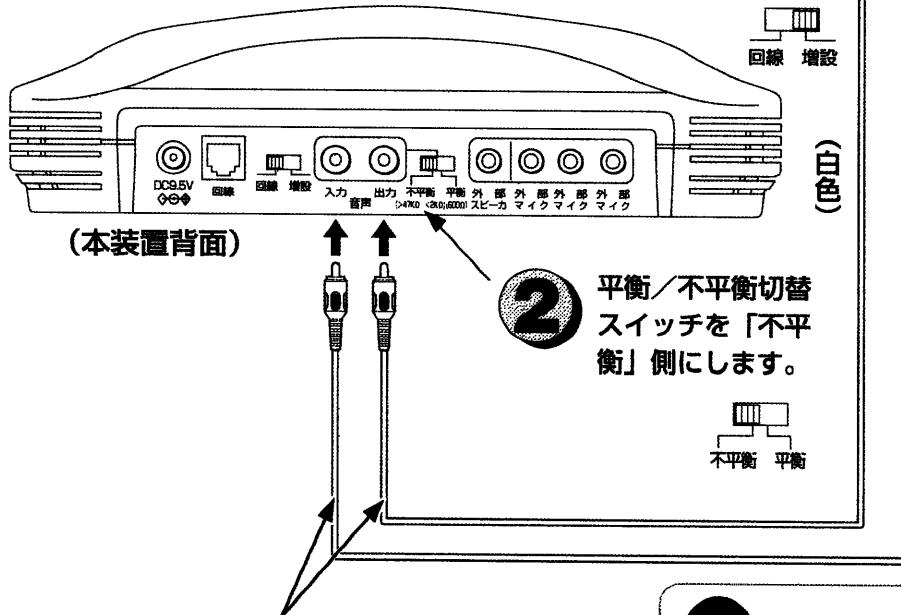
ワンポイント

●構内交換機（PBX）の端末としてお使いになるときは

本装置底面のパッド切替スイッチ（PAD）を「M」側にしてください。

⚠警告

●電源アダプタコードは、必ず付属のものをお使いになり、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・感電の原因となることがあります。

EC-12を増設するには

5 本装置の音声入力端子と増設機の音声出力端子間、および本装置の音声出力端子と増設機の音声入力端子間を、オプションの簡易型用ケーブルCでつなぎます。(このとき、増設機の音声入出力端子の色とケーブルのピンの色が合わなくなります。)

ワンポイント

●**EC-12を増設機として接続したときは**
状態表示ランプ（緑）が常時点灯します。

STOP お願い

●本装置と増設機との距離は、1.5 m以上離して設置してください。ハウリング防止のため、近づけすぎないよう設置し、また、角にあるマイクとマイクを向かい合わせないよう平行に置いてください。
●増設機のスピーカ音量の調節は、標準（ランプ3個点灯）でお使いください。(調節は、本装置の音量ボタンで行ってください。) 増設機の音量を上げすぎると、相手に声が届きにくいなど性能が低下します。
●増設機の回線／増設切替スイッチは、必ず「増設」側に設定し、回線を接続しないでください。スピーカから音が出ないなど動作に不具合が生じます。
●EC-12を増設機として接続したときは、スピーカボタン、ダイヤルボタン、フックボタンは使用できません。
●回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。
●EC-12以外の機器を増設しないでください。正常な通話ができなくなります。

Phoenix Vと接続するには

① 電源がOFF（電源アダプタを抜いた状態）であることを確認してください。

Phoenix V（背面）

コーディックボード

CAM-2 CAM-1 AUD-IN SPKRS HANDSET ISDN

③ 平衡／不平衡スイッチを「不平衡」側にします。

不平衡　平衡

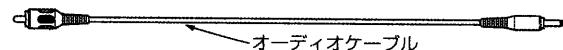
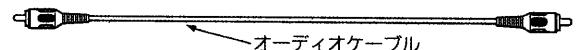
② 回線／増設切替スイッチを「増設」側にします。

回線　増設

DC9.5V　回線　回線　増設　入力　出力　音声　不平衡　平衡　外部スピーカ　外部マイク　外部マイク　外部マイク

⑤ 電源アダプタのプラグを電源アダプタコード差込口に差し込みます。

⑥ 電源アダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。

④ 本装置の音声入力端子とPhoenix VのSPKRS端子間を下記のケーブル1（市販品）、本装置の音声出力端子とPhoenix VのAUD-IN端子間を下記のケーブル2（市販品）でつなぎます。

■ Phoenix V側の設定（確認）項目

- ●メインコントロールウインドウの［オプション設定］ボタンをクリックします。［オプション設定］ウインドウが表示されます。
- ●［オーディオ設定］タブを選択します。
- ●［デバイス設定］で［EC-11］を選択し、［OK］をクリックします。

〈ケーブル1〉

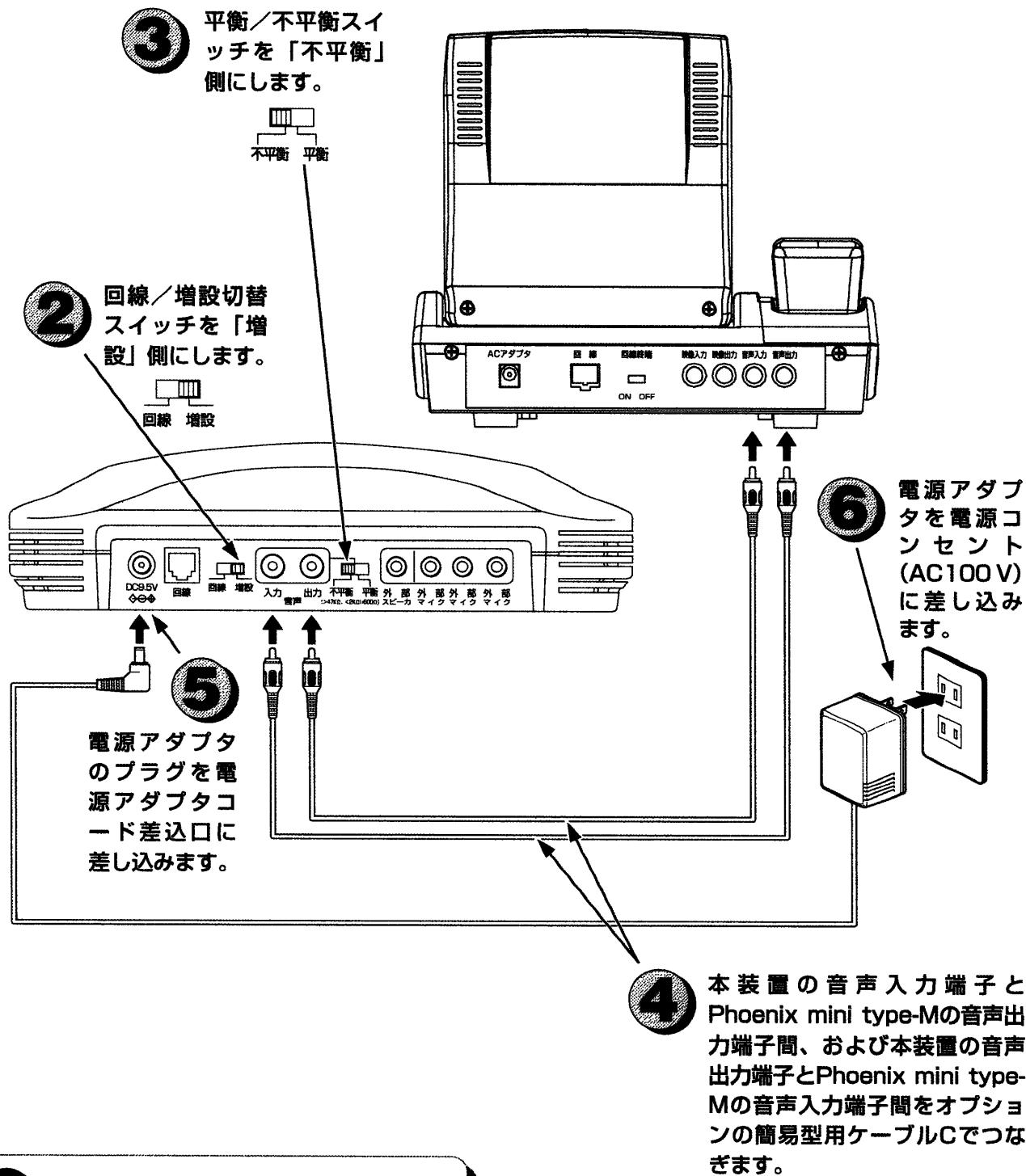
〈ケーブル2〉

STOP お願い

●回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。

Phoenix mini type-Mと接続するには

電源がOFF（電源アダプタを抜いた状態）であることを確認してください。

Phoenix mini type-M（背面）

③ 平衡／不平衡スイッチを「不平衡」側にします。

不平衡　平衡

② 回線／増設切替スイッチを「増設」側にします。

回線　増設

ACアダプタ　回線　回線終端　ON　OFF　映像入力　映像出力　音声入力　音声出力

DC9.5V　回線　回線　増設　入力　出力　音声　不平衡　平衡　外部スピーカ　外部マイク　外部マイク　外部マイク

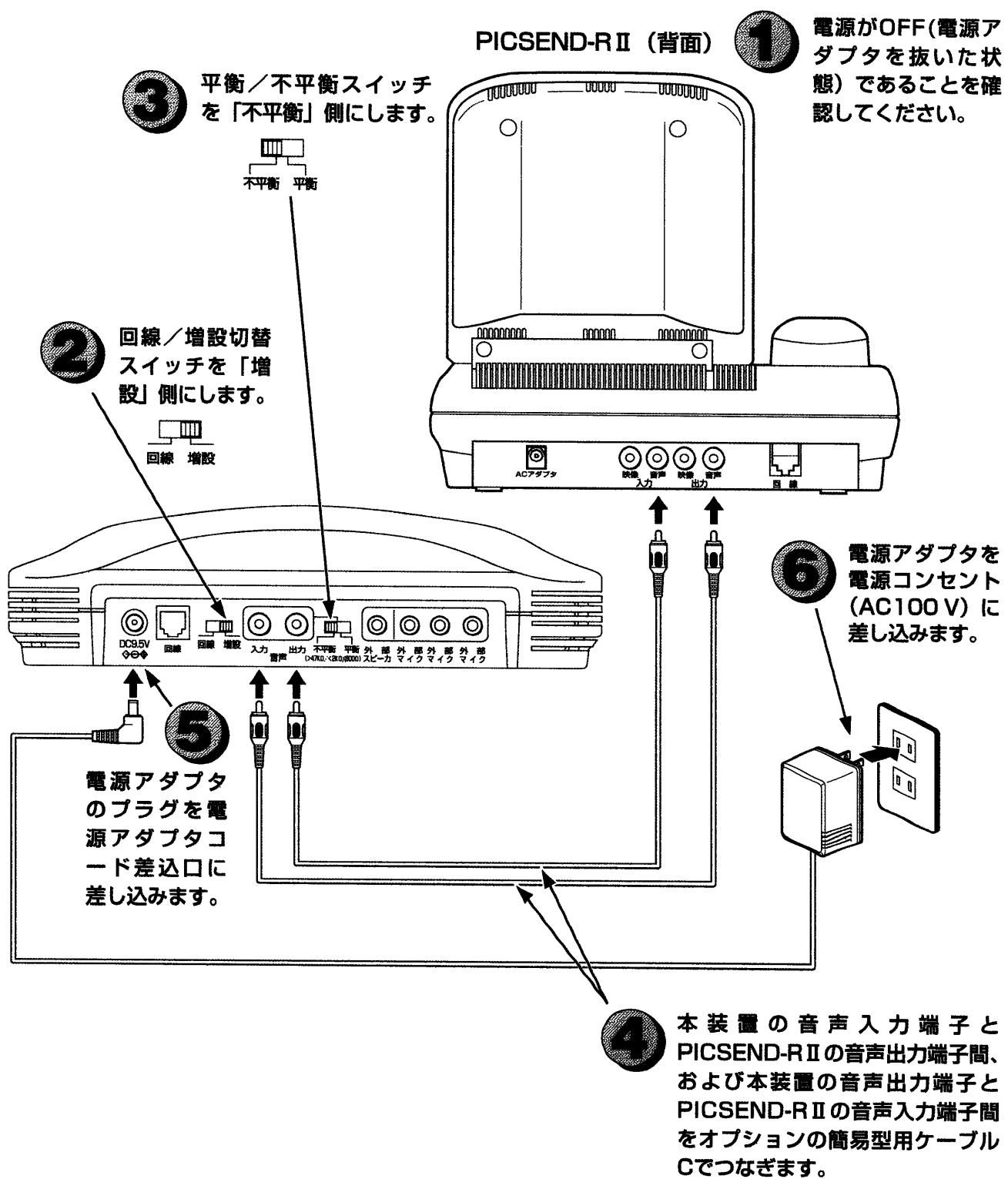
⑥ 電源アダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。

⑤ 電源アダプタのプラグを電源アダプタコード差込口に差し込みます。

④ 本装置の音声入力端子とPhoenix mini type-Mの音声出力端子間、および本装置の音声出力端子とPhoenix mini type-Mの音声入力端子間をオプションの簡易型用ケーブルCでつなぎます。

STOP お願い

●回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。

PICSEND-RⅡと接続するには

■PICSEND-RⅡ側の設定（確認）項目

●機能スイッチSW1の「音声ミキシング」が「OFF」になっていることを確認してください。「ON」の場合は「OFF」にしてください。

●PICSEND-RⅡのハンドセットを上げているとき（スピーカランプ消灯）は、ハンドセットの音声が送られます。PICSEND-RⅡのスピーカランプが点灯していることを確認してください。

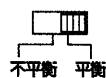
STOP お願い

●回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。

スキュワトークPLUS/C-2000と接続するには

① 電源がOFF（電源アダプタを抜いた状態）であることを確認してください。

③ 平衡／不平衡スイッチを「平衡」側にします。

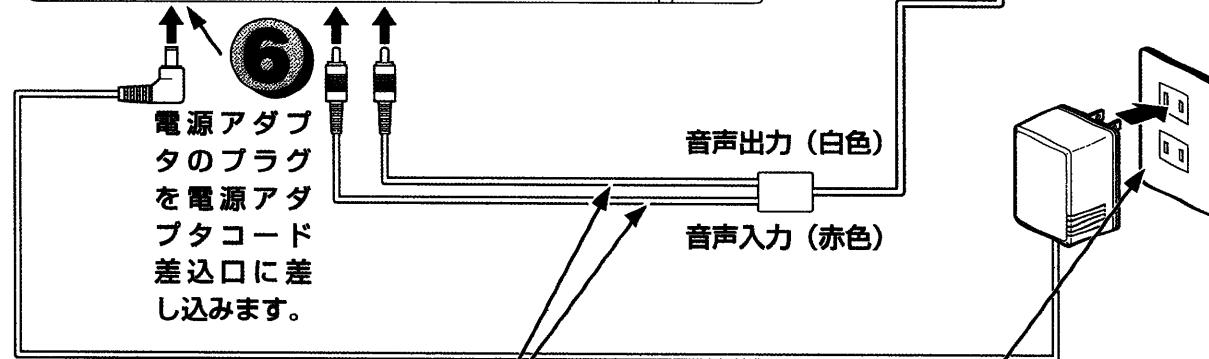
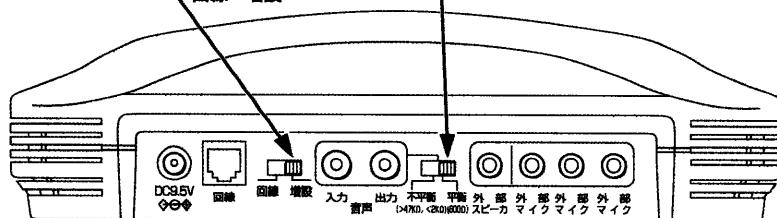
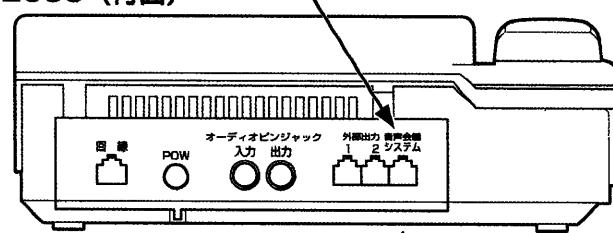
④ スキュワトークPLUS/C-2000の音声会議システム端子にオプションの簡易型用ケーブルBのモジュラ側をつなぎます。

スキュワトークPLUS/C-2000（背面）

② 回線／増設切替スイッチを「増設」側にします。

回線　増設

⑥ 電源アダプタのプラグを電源アダプタコード差込口に差し込みます。

音声出力（白色）

音声入力（赤色）

⑤ 本装置の音声入力端子（赤色）にオプションの簡易型用ケーブルBの赤色のピンを差し込み、本装置の音声出力端子（白色）に簡易型用ケーブルBの白色のピンを差し込みます。

⑦ 電源アダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。

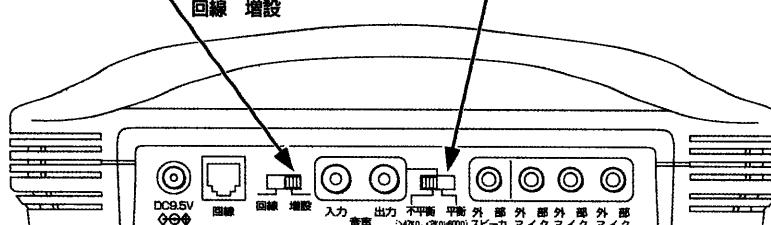
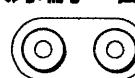
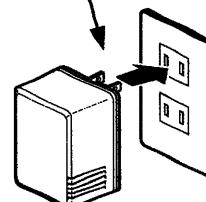
■ スキュワトークPLUS/C-2000側の設定（確認）項目

● 音声出力先切り替え「なし」（初期設定）の場合は、会議中に「外部機器」を押してください。「あり」の場合は、会議中に「外部機器」＋「3」を押してください。

STOP お願い

● 回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。

その他の機器のハンズフリー通話装置として接続するには

音声入出力端子の仕様が本装置と接続できる機器であることを確認してください。(☛P24)

電源がOFF（電源アダプタを抜いた状態）であることを確認してください。

お知らせ

- 接続する機器との入出力インピーダンスと、インタフェースの「平衡」、「不平衡」とを確認し、平衡／不平衡切替スイッチを設定します。
- 平衡/不平衡を正しく設定しないと、スピーカから不要なノイズが発生したり、相手の音声やこちらの音声が聞こえにくくなったりすることがあります。接続する機器のインピーダンスによっては、入出力レベルが増減します。
- 音声入出力端子用接続ケーブルはオプションです。接続する機器のコネクタ形状を確認してください。

STOP **お願い**

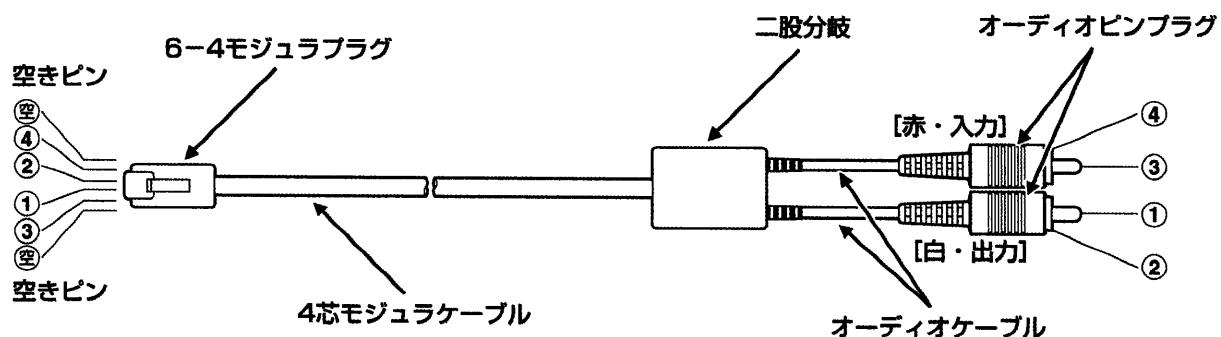
- 回線／増設切替スイッチを切り替えたあとは、必ず電源アダプタを抜き差ししてください。誤動作することがあります。
- 回線／増設切替スイッチを「回線」側にして、その他の機器を増設することはできません。

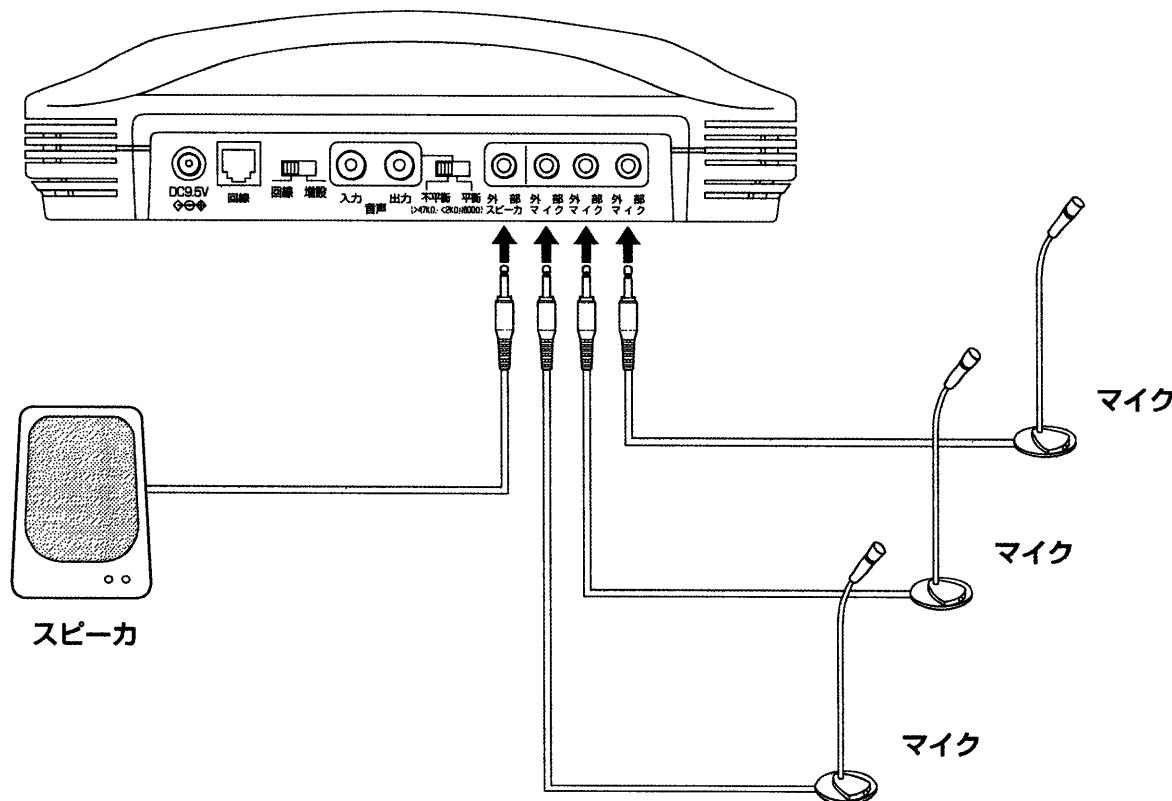
その他の機器のハンズフリー通話装置として接続するには

■本装置の音声入出力端子の仕様

本装置の音声入出力端子の仕様は次のとおりです。標準入力レベル、出力レベルなどを確認して、本装置の仕様に合った機器（電話機など）を接続してください。
レベルの合わない機器を接続した場合は、相手の音声やこちらの音声がひずんで聞こえたり、ノイズが大きくて使用できない場合があります。

音声入力端子	形　状	RCAピンジャック×1
	標準入力レベル	－14.7 dBm　過負荷レベル＋3 dBm
	インピーダンス	47 kΩ以上（不平衡）・約600 Ω（平衡）切り替え
音声出力端子	形　状	RCAピンジャック×1
	標準出力レベル	－14.7 dBm　過負荷レベル＋3 dBm
	インピーダンス	2 kΩ以下（不平衡）・約600 Ω（平衡）切り替え

・音声入出力端子への接続は、一般的には次のようになります。
　本装置の音声入力端子←接続装置の音声出力端子
　本装置の音声出力端子→接続装置の音声入力端子
・簡易型用ケーブルB（スキュワトークPLUS/C-2000接続用ケーブル）は下図となっています。ピン配列に注意してください。異なる場合は使用できません。

スピーカやマイクを接続するには

外部スピーカを1個、外部マイクを最大3個まで増設して使用することができます。

■外部スピーカ端子、外部マイク端子の仕様

外部スピーカ端子	形　状	ミニモノラルジャック（φ3.5）
	インピーダンス	200 Ω以下
外部マイク端子	形　状	ミニモノラルジャック（φ3.5）
	インピーダンス	2 kΩ
	その他	プラグインパワー対応

■外部スピーカについて

アンプ内蔵品でプラグ形状がミニモノラルプラグ（φ3.5）のものをご使用ください。
これ以外のものを使用すると、EC-12やスピーカが故障したり、EC-12が正常に動作しないおそれがあります。

■外部マイクについて

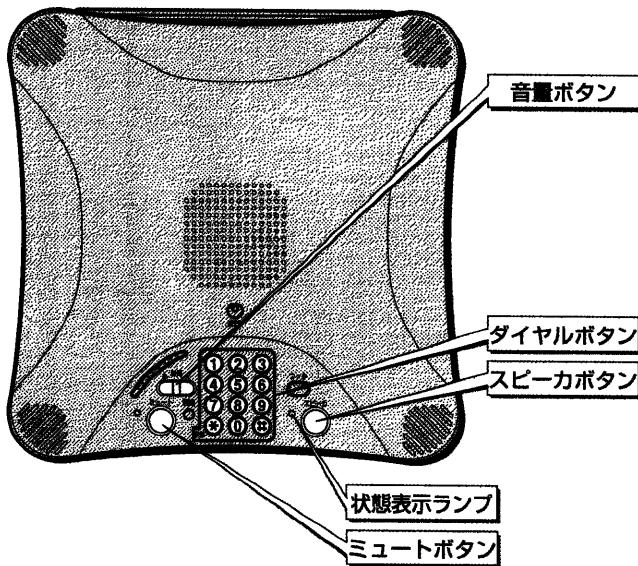
プラグインパワー対応でプラグ形状がミニモノラルプラグ（φ3.5）のものをご使用ください。また、必ず単一指向性のものをご使用ください。
これ以外のものを使用すると、EC-12やマイクが故障したり、EC-12が正常に動作しないおそれがあります。

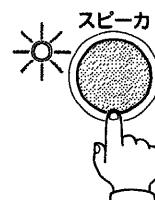
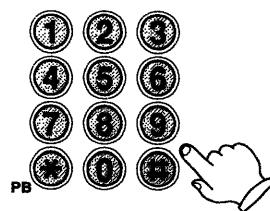
お知らせ

- 外部スピーカおよび外部マイクは、必ず左記の注意事項に留意し、上記に示した仕様に合ったものをご使用ください。
- 本装置と外部スピーカは1.5 m以上、本装置と外部マイクおよび外部スピーカと外部マイクは1 m以上離して設置してください。ハウリング防止のため、近づけすぎないように設置し、また、外部マイクは本装置や外部スピーカとは逆方向に向けて置いてください。設置条件については、P16の設置図を参照してください。
- 外部スピーカの音量を上げすぎると、相手に声が届きにくいなど性能が低下します。
- エコーやハウリングが発生するときは、外部スピーカの音量を小さくしてご利用ください。

1 お使いになる前に
2 接続する
3 EC-12を使う
4 ご参考に

電話をかけるには

ダイヤルボタンを使って、電話をかけることができます。

1 スピーカボタンを押します。

「ツー」という発信音が聞こえ、状態表示ランプが緑に点灯します。

2 電話番号をダイヤルボタンで押します。

途中で電話番号を押し間違えた場合は、フックボタンを押してダイヤルボタンを最初から押し直してください。

3 相手の方が出たら、お話しください。

4 通話が終わったら、スピーカボタンを押します。

状態表示ランプが消えます。

ワンポイント

●相手の方の声が聞き取りにくいときは

スピーカからの音量を音量ボタンで調節してください。(☛P29)

外部スピーカを使用している場合は、外部スピーカの音量を調整してください。

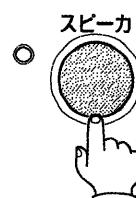
●こちらの声を相手に聞かれたくないときは

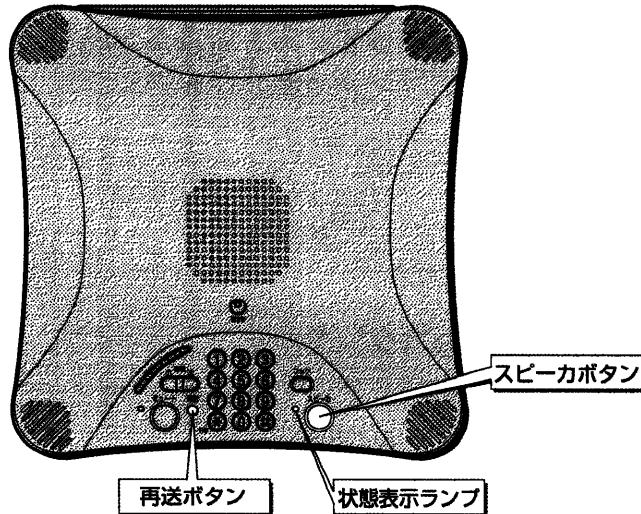
ミュートボタンを押してください。(☛P29)

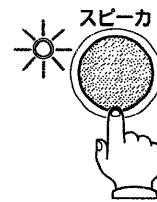
●EC-12を増設したときは

増設側のEC-12から電話をかけることはできません。

お知らせ

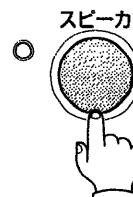
●手順1で聞こえる「ツー」という発信音や、相手を呼び出しているときに聞こえる呼出音は、周囲の環境により音量が変化することがあります。

同じ相手の方にかけ直すには（再ダイヤル）

最後にかけた相手の方には、再送ボタンでもう一度電話をかけ直すことができます。再ダイヤルには、直前にかけた相手の方の電話番号の32桁（ダイヤル種別がPBのときは31桁）までが記憶されています。

1 スピーカボタンを押します。

「ツー」という発信音が聞こえ、状態表示ランプが緑に点灯します。

2 再送ボタンを押します。

3 相手の方が出たら、お話しください。

4 通話が終わったら、スピーカボタンを押します。

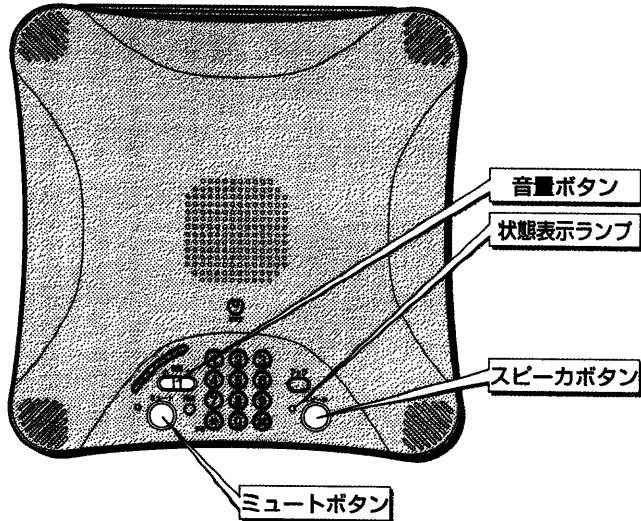
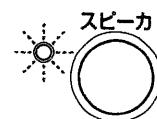
状態表示ランプが消えます。

●再ダイヤルを禁止するには

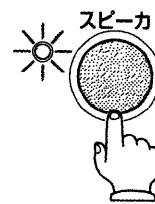
電話をかけてお話し中に再送ボタンを2回押すと、次に電話をかけるときに、再送ボタンは使用できなくなります。

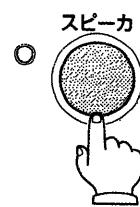
お知らせ

- ●停電があったときには、再ダイヤルの内容は消去されます。
- ●電話をかけてお話し中に再送ボタンを2回押したときは、その通話を終了するまでダイヤルができなくなります。このため留守番電話へのリモコン操作などができなくなりますのでご注意ください。

電話を受けるには

電話がかかってくると着信音が鳴り、状態表示ランプ（赤）が点滅し、電話を受けることができます。

1 電話がかかってくると着信音が鳴り、状態表示ランプ（赤）が点滅します。

2 スピーカボタンを押すと、相手の方とお話しができます。

状態表示ランプが緑に点灯します。

3 通話が終わったら、スピーカボタンを押します。

状態表示ランプが消えます。

ワンポイント

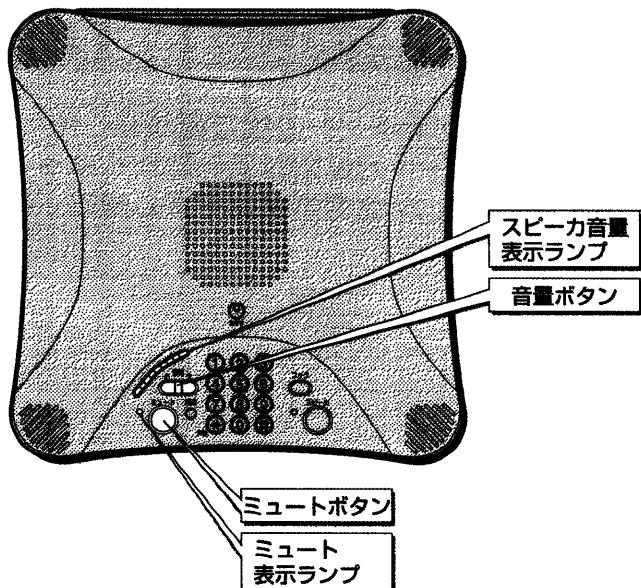
●**相手の方の声が聞き取りにくいときは**
スピーカからの音量を音量ボタンで調節してください。
(☛P29)

●**こちらの声を相手に聞かれたくないときは**
ミュートボタンを押してください。(☛P29)

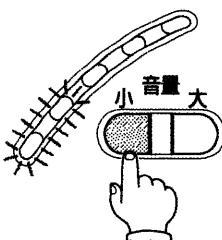
●**EC-12を増設したときは**
増設側のEC-12で電話を受けることはできません。

●**着信音「切」に設定した場合は**
着信音は鳴らず状態表示ランプ（赤）が点滅します。
(☛P12)

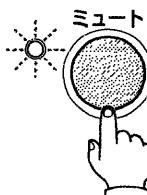
スピーカの音量を調節するには／こちらの声を相手に聞こえないようにするには

**スピーカから聞こえる相手の声の大きさを、音量ボタンで調節できます。
こちらの音声を相手に伝えたくないときは、ミュート（送話切り）することができます。**

スピーカの音量を調節する

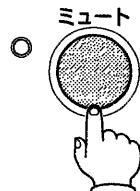
1 スピーカからの音量が小さいときは、音量ボタンの「大」を押します。

2 スピーカからの音量が大きいときは、音量ボタンの「小」を押します。

こちらの声を相手に聞こえないようにする

1 ミュートボタンを押します。

ミュート表示ランプ（赤）が点滅します。

ミュート中（送話切りの状態）でも、相手の声は聞こえます。

2 ミュートを解除するときは、再度ミュートボタンを押します。

ミュート表示ランプが消えます。

ワンポイント

●音量設定によるランプ表示は

音量設定が最大のときは、スピーカ音量表示ランプが5個点灯し、最小のときは1個点灯します。
音量ボタンを2回押すごとに、スピーカ音量表示ランプは1個ずつ点灯／消灯します。
ただし、音量設定が最小（ランプ1個点灯）のときは、音量ボタンの「大」を2回押しても2個目のランプが点灯しない場合があります。このときは、もう一度音量ボタンの「大」を押してください。

●ハウリングやエコーが発生するときは

スピーカの音量を小さくしてください。

●増設使用時にミュートするときは

必ず本装置のミュートボタンを使用してください。
このとき、増設側のミュート表示ランプは点滅しません。

各種サービスを利用するには

お話し中にかかってきた電話を受けるキャッチホンサービスおよび三者通話のできるトリオホンサービスをご利用になれます。また、ダイヤル回線をご利用の場合でも電話で利用できるプッシュホンサービスをご利用になれます。

ワンポイント

●キャッチホンサービスおよびトリオホンサービスを利用するには
局番なしの116番または当社の営業所等へお問い合わせください。

●プッシュホンサービスの種類は
- クレジット通話サービス
- ポケットベルサービス
- 銀行ANSERサービス
- ホームテレホンにおけるテレコントロール
- 留守番電話へのリモコン操作　など

お知らせ

●キャッチホンサービスをご利用になるとき以外で、お話し中にフックボタンを押すと、電話が切れてしまいますのでご注意ください。
●銀行ANSERサービスなどの一部システムでは、サービスを利用できない場合があります。
●ダイヤル回線をご利用の場合、プッシュホンサービスご利用後、電話を切るとダイヤル信号に戻ります。
●＃8300番、＃8501番など1桁目が＊や＃の番号を利用するときは、プッシュ回線の契約が必要です。

キャッチホンサービスを利用する

1 「キャッチホン」の信号音が聞こえたら、相手の方に待っていただくように伝え、フックボタンを押します。

2 かけてきた相手の方とお話しください。

もう一度フックボタンを押すと、前の相手の方とお話しすることができます。

プッシュホンサービスを利用する（DP→PB切替）

1 電話をかけます。

2 ⊛（PB）ボタンを押します。

プッシュ回線をご利用の場合は⊛（PB）ボタンを押す必要はありません。

3 必要なダイヤルボタンを押します。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったときは、修理に出す前に次の点をご確認ください。

こんなときは	原因	確認してください	参照ページ
スピーカ音量表示ランプがひとつも点灯しない*	電源アダプタがコンセントから抜けている	正しく差し込んでください	☛P17～P23
	電源アダプタのコードが傷んでいる	交換してください	—
	添付されている電源アダプタ以外のアダプタを使用している	添付されている電源アダプタを使用してください	☛P11
	停電中のため	故障ではありません	—
相手を呼び出せない（回線／増設切替スイッチを「回線」側で使用時）	ケーブル類の接続が間違っている	正しく接続してください	☛P17
	ケーブル類が抜けている	正しく差し込んでください	
	ケーブル類が傷んでいる	交換してください	—
	回線種別などの設定が間違っている	正しく設定してください	☛P17
着信音が鳴らない（回線／増設切替スイッチを「回線」側で使用時）	着信音スイッチ（ディップスイッチ）が「切」になっている（ただし、状態表示ランプは赤色点滅）	着信音スイッチ（ディップスイッチ）を「入」側にしてください	☛P14
	回線／増設切替スイッチが「増設」側になっている	「回線」側にしてください	☛P17
スピーカから音が出ない	ケーブル類の接続が間違っている	正しく接続してください	☛P17～P23
	ケーブル類が抜けている	正しく差し込んでください	
	ケーブル類が傷んでいる	交換してください	—
	回線／増設切替スイッチが「増設」側になっている（「回線」側で使用時）	「回線」側にしてください	☛P17
	増設機の設定、操作が間違っている（増設機を接続して使用時）	正しく設定、操作してください	☛P18
	外部機器の設定、操作が間違っている（外部機器を接続して使用時）	正しく設定、操作してください	☛P19～P23
外部スピーカから音が出ない 外部スピーカからの音が小さい	ケーブルが抜けている	正しく差し込んでください	☛P25
	外部スピーカの仕様が本装置と合っていない	本装置の仕様に合った外部スピーカを接続してください	☛P25
スピーカからの音が小さい	音量設定が「小」になっている	音量ボタンで調節してください	☛P29
	平衡／不平衡切替スイッチの設定が間違っている（回線／増設切替スイッチを「増設」側で使用時）	正しく設定してください	☛P18～P23
	接続した外部機器の標準入出力レベルが本装置と合っていない（外部機器を接続して使用時）	本装置の仕様に合った機器を接続してください	☛P24
スピーカからのノイズが大きい	相手側の室内の騒音が大きい	騒音の小さい場所で使用するように指示してください	—
	ケーブル類が傷んでいる	交換してください	
	平衡／不平衡の切り替えが間違っている（回線／増設切替スイッチを「増設」側で使用時）	正しく設定してください	☛P18～P23

* 本装置には電源スイッチがありません。電源は「電源アダプタ」を差し込むことによって入ります。また、電源専用の表示用ランプもなく、「スピーカ音量表示ランプ」で兼用しています。このランプは、音量ボタンの設定により点灯する個数が変わりますが、音量を最小にしても、必ずランプ1個は点灯します。このランプがすべて消えているということは電源が入っていないか、故障しているか、どちらかです。

（つづく）

故障かな？と思ったら

（つづき）

こんなときは	原因	確認してください	参照ページ
こちらの音声が相手に伝わらない	ケーブル類の接続が間違っている	正しく接続してください	☛P17～P23
	ケーブル類が抜けている	正しく差し込んでください	
	ケーブル類が傷んでいる	交換してください	—
	ミュート状態になっている	ミュートボタンを押してください	☛P29
	参加者とマイクの距離に問題がある	距離を調節してください	☛P15,16
	増設機の設定、操作が間違っている（増設機を接続して使用時）	正しく設定、操作してください	☛P18
	外部機器の設定、操作が間違っている（外部機器を接続して使用時）	正しく設定、操作してください	☛P19～P23
	外部マイクのケーブルが抜けている	正しく接続してください	☛P25
	外部マイクの仕様が本装置と合っていない	本装置の仕様に合った外部マイクを接続してください	☛P25
こちらの音声が相手に小さな音でしか伝わらない	平衡／不平衡の切り替えが間違っている（回線／増設切替スイッチを「増設」側で使用時）	正しく設定してください	☛P18～P23
	参加者とマイクの距離に問題がある	距離を調節してください	☛P15,16
	接続した外部機器の標準入出力レベルが本装置と合っていない（外部機器を接続して使用時）	本装置の仕様に合った機器を接続してください	☛P24
	相手側の室内の騒音が大きい	騒音の小さい場所で使用するように指示してください	—
エコーやハウリングが発生する	マイクやスピーカの近くに物を置いている	本装置や外部スピーカ、外部マイクのそばに物を置かないでください	☛P15,16
	壁の近くに設置している	本装置や外部スピーカ、外部マイクを壁から離して設置してください	
	音量を不必要に大きくしている	音量を調節してください	☛P29
	増設機の音量を標準（電源投入時）より大きくしている	標準にしてください	☛P18
	増設機を接続したとき、本装置との距離が1.5 m未満である	2台の設置距離を1.5 m以上離してください	☛P15
	外部スピーカや外部マイクを接続したとき、本装置との距離が近い	外部スピーカと本装置は1.5 m以上、外部マイクと本装置は1 m以上離してください	☛P16,25
	外部スピーカと外部マイクの距離が1 m未満である	設置距離を1 m以上離してください	☛P16,25
	外部マイクが単一指向性でない	単一指向性のマイクを使用してください	☛P25
	外部マイクが本装置や外部スピーカの方向を向いている	外部マイクを本装置や外部スピーカと反対向きに設置してください	☛P16,25

索　引

アルファベット

五十音

【ア行】

【カ行】

【サ行】

【タ行】

【ハ行】

【マ行】

仕　様

寸法		幅約240 mm×奥行き約240 mm×高さ約64 mm
質量		約1.3 kg（電源アダプタ含まず）
電源		AC100±10 V　50/60 Hz　付属電源アダプタ使用
消費電力		最大約9 W
帯域		約0.3〜3.4 kHz
音声入力端子	形状	RCAピンジャック×1
	標準入力レベル	−14.7 dBm　過負荷レベル+3 dBm
	インピーダンス	47 kΩ以上（不平衡）・約600 Ω（平衡）切り替え
音声出力端子	形状	RCAピンジャック×1
	標準出力レベル	−14.7 dBm　過負荷レベル+3 dBm
	インピーダンス	2 kΩ以下（不平衡）・約600 Ω（平衡）切り替え
外部スピーカ端子	形状	ミニモノラルジャック（φ3.5）
	インピーダンス	200 Ω以下
外部マイク端子	形状	ミニモノラルジャック（φ3.5）
	インピーダンス	2 kΩ
	その他	プラグインパワー対応
スピーカ	数	内蔵1個
	標準出力音圧	70 dBspl/50 cm
マイク	数	内蔵4個
	指向特性	単一指向性(EC-12全体は全指向性)
	感度	−55 dB以上（単品）
環境条件	温度	5〜35 ℃
	湿度	45〜85 %（結露しないこと）

保守サービスのご案内

●保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので「保証書」は大切に保管してください。
（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

●保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。
当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしております。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用は不要になります。

●故障の場合

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

●お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

●その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120－109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

●補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品（商品の特性を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後、7年間保有しております。

この取扱説明書は、エコマーク認定の再生紙を使用しています。

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120−109217（トークニイーナ）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

本2066-1(99.12)
EC-12トリセツ